

片貝川沿岸に広がる緑豊かな農地

〔黒谷頭首工、東山円筒分水槽ほか 魚津市〕

片貝川沿岸地域は、黒谷頭首工から取水した用水を水源とし、約千四百ヘクタールの農地を潤しています。先人の努力と卓越した技術のおかげで安定した取水・導水が行われ、現在のような緑豊かな農地が広がっています。



上流から見た黒谷頭首工



補修工事中の黒谷頭首工



下流から見た補修工事前の黒谷頭首工



片貝川の特徴

片貝川は、魚津市の南東にある標高二千四百メートル以上の毛勝三山を源流とし、流路延長27キロメートルを経て富山湾へ注いでいます。源流から海へ至る高低差に対し流路延長が短いことから、日本屈指の急流河川として知られています。

また、川底に水が染み込みやすく、水量の変化が激しい不安定な河川でもあり、その沿岸地域では大雨の際に水害が発生し、夏期には深刻な水不足に悩まされ、水争いが絶えませんでした。そのため、片貝川の沿岸には用水を安定して送るための農業用水利施設が点在しています。

頭首工の建設

江戸時代中頃は、単独あるいは複数の村ごとに共同で片貝川から直接用水を引いていました。その用水は、堤防に穴を開け、石などで川をせき止めて水を引くものでした。穴を開けた場所の堤防は弱く設備も簡易なため毎年のように起きる水害で壊れ、その復旧に大変な労力と費用が掛かっていました。

これらの問題を解決するため明治時代には沢山あった取水口を減らすなどの取り組みが行われ、昭和11年に魚津市黒谷地内にて取水口を1カ所とする黒谷頭首工の建設事業が始まりました。

黒谷頭首工
東山円筒分水槽ほか



片貝川沿岸地区計画一般平面図



貝田新円筒分水槽

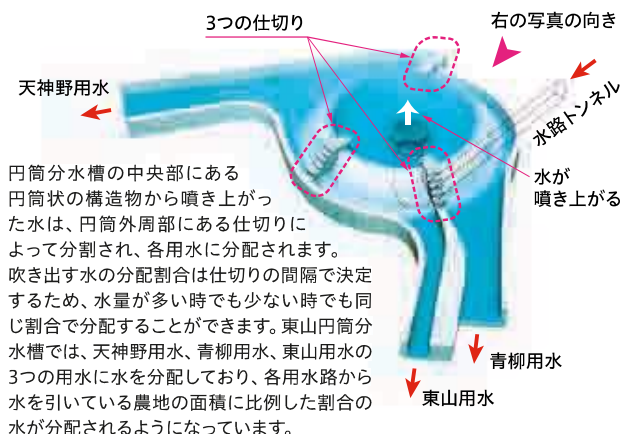
公平に水を分配する 円筒分水槽

黒谷頭首工では、片貝川の左岸から取水し、左岸の貝田新円筒分水槽を通り、片貝川の川底に埋められている2本の導水管を通して、右岸の東山円筒分水槽に噴き上がっています。

これら2つの円筒分水槽は、一定の割合で農業用水を分配するための施設として設けられました。かつては水争いが絶えなかった片貝川流域ですが、いつでも公平に水を分配可能なこの施設により、数十年にわたって安定して用水が送られています。

昭和29年には円筒分水槽が設置され、昭和30年に完成を見ました。その後、昭和48年から昭和51年までの事業により黒谷頭首工が改修され、現在の形になりました。

◎円筒分水槽が水を分配するメカニズム



東山円筒分水槽

次世代への継承

地域に欠かせない施設の機能を維持するために、計画的な点検・整備や適切な維持管理が大切になっています。

黒谷頭首工は完成してから40年以上経過し、機能低下による災害発生を未然に防止するため令和2年度から防災減災事業により頭首工の堰柱、下流エプロン及びゲートなどの補修が行われました。

東山円筒分水槽も60年以上経過し、平成25年に水槽外周 令和4年に水槽内部を表面被覆するなどの補修が行われるとともに、地元の住民が円筒分水槽の機能を保つため、底に溜まった砂を除去する排砂作業を毎年田植え前に行っています。

また、東山円筒分水槽は、農業用施設として重要なだけではありません。令和2年4月に国の登録有形文化財(建造物)に登録されたほか、12月には隣接地にポケットパークが整備されるなど、今では撮影スポットとして注目され訪れる人が増えています。その美しさは、「日本一美しい円筒分水槽」と称されるほどです。

片貝川流域の農地を潤す農業用施設として、そして地域の水利システム近代化の歴史を物語る文化財、観光資源として、大きな役割を果たすこれらの農業水利施設を次世代に引き継ぐためにも、生産者、行政、地域住民等が各々の役割を担いつつ連携しながら、地域環境の整備と保全を進めていくことが求められています。



▲分水槽とその周辺の美しい景観が撮影スポットとして注目
第12回とやまの農山村写真展より「日本一美しい円筒分水槽と夕陽」

▼分水槽とその周辺の美しい景観を望むポケットパーク



▼登録有形文化財(建造物)認定プレート



▲蛇石

へびいし りゅうせき

蛇石(龍石)

片貝川上流には、龍のような模様の付いた蛇石(龍石)という大きな石があります。これは昔、川で暴れていた龍が狩人に退治されて石に巻きついて息絶えたものと伝えられています。今でも洪水があると、その祟りと恐れられ、干ばつの時にはこの石を打ち叩けば必ず雷雨を伴うと信じられ、豊富な水量をもたらす神として祀られています。



- ◆頭首工【とうしゅこう】
河川などから用水路へ必要な用水を引き入れるための施設。
- ◆堰柱【せきちゅう】
水門(ゲート)を支えるための両側に設けられたコンクリートの柱。
- ◆下流エプロン
堰柱やゲートなどの直下流の川底が水流で削られないよう防止する構造物。
- ◆表面被覆
コンクリートの品質を低下させる水分や酸素などを侵入させないよう遮断する工法。



トピックス



中新川郡立山町
かまがふち
釜ヶ淵地区

「しごと」「暮らし」「活力」「土地利用」 に着目した農村の振興

中山間地域は、農業の重要な拠点ですが、人口減少や高齢化が進み、農業のみならず地域での暮らしを続けていくことが難しくなっている地域もあります。中山間地域の様々な課題に対応するため、「しごと」「暮らし」「活力」「土地利用」の観点から農村振興施策を総合的に推進する必要があります。こうした中、国は地域のコミュニティの維持と農山漁村の活性化や自立を後押しする事業として、「最適土地利用総合対策」や「農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業」を展開しているところです。

富山県内で最初にこの取り組みを始めた立山町釜ヶ淵地区を紹介します。



地域活性化は「土地利用」から

釜ヶ淵地区は、民家や線路に挟まれ、狭く形が整っていない農地が多く残る地域です。大型の農業機械が入れないため効率的な営農活動が難しく、担い手農家も引き受けが難しい状況です。加えて農地所有者の高齢化により、農地が適切に管理されず荒廃するとともに、鳥獣被害にも苦慮していました。

この問題を解決するため、令和3年度に立山町が主体となり、地域の多様な人材を巻き込んで「土地利用」を考える「最適土地利用対策検討会」を開始しました。

話し合いを重ね、省力で育てられる作物の栽培、放牧などの実施により、「粗放的（手間の少ない方法）な管理で荒廃農地を再生する」という土地利用計画を具体化していきました。令和4年度からは、策定した土地利用構想図を基に、移住者や地域おこし協力隊が中心となり、地域住民の協力も得てカモミールやレンゲの栽培やポニーの放牧、養蜂を開始しました。

地域住民がこの取り組みに賛同してくれたのは、地域を活性化したいとの思いと、立山町の支えがあったからです。農地保全活動を通じて、人と人が繋がる新しいコミュニティが形成されました。

多様な人材を巻き込んで、 最適土地利用を土台に農村RMOへ

釜ヶ淵地区の課題は農地に限らず、地域資源を活かした「しごと」や地域の「暮らし」を守るための取り組みが必要であることから、農村RMOの形成を目指す「釜ヶ淵みらい協議会」が設立されました。

地域の将来ビジョンづくりに向けたワークショップをしていく中で、プロジェクトごとにリーダーが中心となり、活動内容や予



2 農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

農村RMOの形成を推進するため、地域の話し合いを通じた農用地保全、地域資源活用、生活支援に係る将来ビジョンの策定、ビジョンに基づく調査、計画作成、実証事業等の取り組み、デジタル技術の導入・定着を推進する取り組みのほか、協議会の伴走者となる組織の育成等の取り組みを国が支援する事業です。

1 最適土地利用総合対策

地域ぐるみの話し合いにより、営農を続ける農地、粗放的利用を行う農地等を区分し、実証的な取り組みを行いつつ、土地利用構想図を作成し、その実現に必要な農用地保全のための費用を国が支援する事業です。



農作業体験



ポニーの放牧



算を決める「プロジェクトリーダー制」を採用し、多様な人材が活躍しやすい組織づくりを行いました。

完成した将来ビジョンでは、荒廃農地を活用した市民農園の開設や交流拠点施設の整備、空き家を活用した農泊事業に取り組み、「活力」ある地域を目指すこととしました。

その一環として、令和5年度に「J.A.アルプスの倉庫を改装し、地域の交流拠点「釜ノ蔵」に再生。併せて地区内に住む地域おこし協力隊が「釜ノ蔵」内の「釜カフェ葉膳やわやわ」の運営を任せられ、コミュニティビジネスをスタートさせました。

地域に伴走つていくために

県内で農村RMO形成に取り組む地区は令和5年度まで5地区となり、農村RMOへの期待が広がりをみせているところですが、農村RMOの立ち上げ期は、地域の努力だけではなく行政や関係機関の理解と協力が不可欠で、さらに地域に寄り添って活動をサポートする人材の確保も必要です。

そこで県では、地域づくりを一貫してコーディネートできる「農村RMO伴走者」育成のための「農村RMO伴走者育成講座」を開催しています。

令和5年度は一般社団法人「持続可能な地域社会総合研究所（島根県）の藤山浩所長に講師をお願いしました。

第1回は人口・就農者数の現状分析と予測を行い、地域住民の立場に立って、根拠に基づいた具体的な目標を定める研修を行いました。第2回は地域の仕組み（組織）に目を向け、地域の

地域の交流拠点づくり「釜ノ蔵」



1.改装前の倉庫 2.改装の様子
3.「釜ノ蔵」オープンセレモニーの様子
4.賑わいを見せる「釜ノ蔵」
5.賑わいを見せる「釜ノ蔵」(ヨガ教室)



農村RMO伴走者育成講座

強みや弱み、今後の課題を把握するための「地元関係図」の作成演習を実施し、農村RMO形成に向けた地域の組み立て方を習得する講座を開催しました。

また、令和5年度から農村RMOのモデル形成に取り組み富山市黒瀬谷地区と氷見市速川地区で、地元関係図を活用し、地域の様々な組織の関係を天気図に見立てる「地元天気図ワークショップ」を実施し、将来ビジョンの作成支援を行いました。

今後とも地域の実情に応じた支援となるよう関係機関と連携した伴走支援体制を整えていきます。



6.釜カフェ 葉膳「やわやわや」外観
7.釜カフェ 葉膳「やわやわや」店内
8.メニューの葉膳カレー&蒸し野菜



釜カフェ 葉膳「やわやわや」

住所 / 中新川郡立山町道源寺 849-1「釜ノ蔵」内
営業日 / 金、土、日曜日
営業時間 / 11:00~16:00
(営業日・営業時間以外は予約制)
Instagram / <https://www.instagram.com/yawa.yawa.ya/>
インスタグラム



・農村型地域運営組織（農村RMO: Region Management Organization）
複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域のコミュニティの維持に資する取り組みを行う組織のことです。

・地域おこし協力隊
都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移し、地域おこし支援や農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。各自治体の委嘱を受けて就任します。



とやま帰農塾 塾生募集! 2024

富山県では関係人口の増加や移住促進を目的に「帰農塾」というイベントを開催しています。農林漁業を体験してみたい方、田舎暮らしや移住・定住に関心のある方、富山の農山漁村で自然と歴史、農業と食文化を学び、体験してみませんか？



酪農家で
餌やり・搾乳体験、
ランタンエード作り

国吉塾

高岡市
10/26(土)~27日

お採れ体験、
お採れ鮮魚さばき

灘浦塾

氷見市
6/1(土)~2日

郷土料理体験、
くろくろの場で酪農体験

黒部塾

黒部市
10/12(土)~13日

狩女に狩猟を学ぶ、
里芋切り体験

南砺塾

南砺市
6/7(金)~9日

ホタル観賞会、
ホタル探し

笹川塾

朝日町
6/22(土)~23日



かんじぎ揃いレッキン、
こきりこ民謡
ささら踊り体験

五箇山塾

南砺市
《2025年》2/21(金)~23日

水循環遺産巡り、
名人に学ぶ
春山菜収穫と料理

魚津片貝塾

魚津市
5/25(土)~26日

旬の秋野菜収穫、
そば打ち体験

やまだ村塾

富山市
11/8(金)~10日

陶芸体験・発酵の火窯を
活用した特産品づくり

立山塾

立山町
10/18(金)~20日

※やむを得ない事情により中止または延期となる場合があります。

ご家族・ご友人同士で、お誘いあわせの上ご参加ください!

●お申込み・お問い合わせ

2024年度の各塾のスケジュールは、グリーンツーリズムとやまホームページをご覧ください。

グリーンツーリズムとやま
TEL/076-482-3161 FAX/076-482-3635
E-mail info@gt-toyama.net



ホームページ

富山県農村振興課
中山間農業振興班
TEL/076-444-9011

●参加費

	一般	学生
2泊3日	20,000円	12,000円
1泊2日	11,100円	6,800円

第13回 とやまの農山村写真展

受賞作品介绍

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農山村風景を後世に守り伝えることを目的に開催。作品を応募される方はもちろん写真展をご覧いただく方々にとっても農山村の魅力を再発見する良いきっかけとなっています。

今回は199作品（一般86作品、ジュニア113作品）の応募があり、その中から富山県知事賞（最優秀賞、優秀賞）、富山県土地改良事業団体連合会長賞（棚田賞）及びとやま棚田ネットワーク会長賞（特別賞）を選定・表彰しましたので紹介します。



(敬称略)



一般部門

「田んぼの学校」
戸田 美香 (富山市)

ジュニア部門

「実りの季節」
黒田 唯心 (砺波市)



一般部門

「祭り前の静けさの中で」
和泉 知英子 (氷見市)



ジュニア部門

「みんなで植えた田んぼアート」
戸田 智樹 (富山市)

一般部門

「農道」
黒田 俊之 (富山市)



一般部門

加藤 仁一 (富山市)
藤丸 正義 (富山市)



一般部門

藤原 隆太郎 (上市町)
中村 公二男 (砺波市)
谷崎 悦夫 (高岡市)
平井 典子 (富山市)
舛田 勝義 (富山市)
朝田 緑 (富山市)

ジュニア部門

戸田 智咲 (富山市)

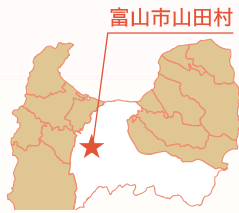
ジュニア部門

三浦 慶大 (上市町)
島端 涼花 (滑川市)
炭田 一颯 (滑川市)
阿部 音奏 (上市町)
清水 ひかり (富山市)
土井 朝陽 (上市町)

受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。

とやま棚田ネットワーク





富山市山田村

平成23年から続く山田地域での「とやま帰農塾 やまだ村塾」では、名産のそば打ち体験や、大根・赤かぶの収穫体験などのプログラムによって、農村生活を体験できます。これまでの受講者は延べ130人を超え、その中にはやまだ塾の受講をきっかけに移住を決めた方もいらっしゃいます。

また、地域の直売所「山田の案山子」は、県の「6次産業化とやまの魅力発信事業」※を活用した新商品の開発や、県の「中山間地域チャレンジ支援事業」※を活用した新規就農者への技術指導等により、地域振興に取り組んでいます。

加えて、「山田地域都市農村交流協議会」が「富山県農泊推進ネットワーク会議」に参加し、農泊事業の実施に向けた準備を進めるなど、多くの人が集う山田地域の実現に向け、地域ぐるみでの活動を進めています。



▲赤かぶの収穫体験



▲とやま帰農塾 やまだ村塾塾生(前列)と塾長・スタッフ(後列)のみなさん

※「中山間地域チャレンジ支援事業」についてはP.6、「6次産業化とやまの魅力発信事業」についてはP.8、「とやま帰農塾」についてはP.14を参照ください。



Topics

『富山県農泊推進ネットワーク会議』を設置。一緒に“農泊”をはじめませんか？

富山県内の農泊の振興を図るため、令和4年8月に、県、市町村、県内農泊地域等で構成する『富山県農泊推進ネットワーク会議』を設置しました。

当会議では、地域の人材育成を目的とした各種研修や先進地視察を開催したり、大規模フェアへの出展、ロゴマーク「のうはくん」の作成、ノベルティグッズやPR動画の制作により、「富山県で体験できる農泊」の周知を図っています。

富山県農泊推進ネットワーク会議では、一緒に農泊に取り組む新規加入者を募集しています。ネットワーク会議で実施している各種活動への参加が可能になるほか、ネットワーク会員内での交流による情報交換も可能になります。



▲先進地視察研修会(新潟県妙高市)の様子
左:体験活動 右:ワークショップ



◀ネットワーク会議 共通ロゴマーク「のうはくん」

『富山県農泊推進ネットワーク会議』(県ホームページ)はこちらから▶
URL: https://www.pref.toyama.jp/1605/sangyou/nourinsuisan/nouhaku/nouhaku_noushin.html



NPO法人グリーンツーリズムとやまホームページはこちらから▶
URL: <http://gt-toyama.net/>



富山の豊かな風土に育まれた『とやまジビエ』の魅力を発信!

県では、イノシシ等による農作物被害防止対策の1つとして、有害鳥獣捕獲の強化に取り組んでいます。しかしながら捕獲された個体のうち、食用とされているのは1割に留まっています。地域資源として活用するため、『とやまジビエ』としてブランド化を推進しており、ロゴマークの作成やウェブサイトの開設、食のイベント等で魅力を発信するなどのPRに取り組んでいます。

令和5年11月には、県内有名店シェフ12名による特別食事会(ガラディナー)を開催したほか、フェア参加30店舗で『とやまジビエ』の料理などを提供する「とやまジビエフェア」(令和5年11月~令和6年2月)を開催するなど、ジビエ料理を味わっていただく機会を創出しました。

今後も継続してイベントを企画していく予定です。個体ごとに味わいが異なるのもジビエの魅力の1つです。ぜひ何度も足を運んで、富山の豊かな風土に育まれた『とやまジビエ』をご賞味ください。



▲「とやまジビエ」を使った料理



◀「とやまジビエ」ロゴマーク

最新情報はここから「とやまジビエ」特設サイト▶
URL: <https://toyama-gibier.jp/>



□本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。

□本誌の内容、バックナンバーが富山県ホームページでもご覧になれます。 <https://www.pref.toyama.jp/> ふるさと夢とやま

第45号 令和6年3月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに棚田地域水と土保全基金で発行されています。

